



2025年8月5日

「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」
(ボラサポ・令和7年大船渡火災)の助成決定にあたって
<第1回>

赤い羽根の中央共同募金会

はじめに

2025（令和7）年2月26日に覚知された岩手県大船渡市の山林火災は、強風と乾燥した気象条件が重なり、市内各所に急速に延焼し、広範囲に甚大な被害をもたらしました。

この火災では、約3,370ヘクタールにおよぶ山林が焼失し、住家を含む多数の建物や生活インフラが損壊。一時は1,896世帯・4,596名に避難指示が発令される事態となり、多くの住民が避難を余儀なくされました。そして、尊い命が失われるという、誠に痛ましい災害となりました。

お亡くなりになられた方に謹んでお悔やみを申しあげますとともに山林火災の被害を受けられた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

火災は3月9日に鎮圧が宣言され、4月7日に鎮火が確認されましたが、森林の荒廃や土砂災害への懸念が続いているほか、仮設住宅やみなし仮設への入居が進む中で、生活再建・心身のケア・孤立防止・地域再生など、多方面にわたる継続的な支援が求められています。

このような状況を受け、中央共同募金会では、被災地で活動するボランティアグループ、NPO等を資金面で支援するため、「災害ボランティア・NPO活動サポート募金（ボラサポ・令和7年大船渡火災）」へのご寄付に加えて、「常設ボラサポ」へのご寄付をあわせて財源とし、1回目の助成を行いました。

1. 応募状況と助成決定状況

本助成事業は、2025（令和7）年5月20日（火）から6月9日（月）までの募集期間を設け、下記の応募をいただきました。

| 応募状況 | 件数 | 応募額 |
|------------------------|-----|---------|
| 短期活動（活動日数30日以内・50万円上限） | 7件 | 317万円 |
| 中長期活動（31日以上・上限300万円） | 8件 | 1,595万円 |
| 合計 | 15件 | 1,912万円 |

これらの応募について、6月23日に審査委員会を開催し、応募要項に記載の「審査にあたって重視する点」の以下8項目に重点を置き審査を行いました。また、活動団体や現地の状況を確認するため、必要に応じて聞き取り調査を行いました。

- ① 応募書から具体的な活動内容や経費精算が読み取れる内容となっているか
- ② 目標や問題意識が明確になっているか
- ③ プロジェクトを実施するための手法が明確で適切か
- ④ 自団体のメンバーだけでなく、ボランティアとともに復旧や復興に向けて行う活動に、さまざまな人たちの参加と協力が得られた活動であるか

- ⑤ 当該被災地に設置された災害ボランティアセンター等との連携や協働により活動が行われているか
- ⑥ 被災地で暮らす人たちの潜在的な力を引き出し、高めていこうとしているか
- ⑦ 被災地での新しい社会的事業・活動へと発展する可能性があるか
- ⑧ 「この先」を意識した活動であるか

審査の結果、短期活動について5件・247万円、中長期活動について8件、1,595万円、計13件1,842万円の助成決定をいたしました。

2. 審査にあたっての考え方（審査委員長コメント）

今回の応募では、現場の課題に即した仮設住宅での支援や、焼損木の撤去、専門家による相談会の開催、住民同士の交流や地域の活性化を目的としたイベントの開催など多様な活動内容がみられました。

審査は、応募書類の記載等から、地元のニーズに対応した活動であること、また団体の活動実績や地元団体の連携状況などについて総合的に判断し、採択団体を決定しました。

助成が決定した団体の皆さまにおかれては、活動を進めるにあたり、安全面への十分な配慮をお願いいたします。また、多くの寄付者から託された貴重な財源による助成であることをご理解いただき、有意義な活動を展開されるよう望みます。

なお今後も、被災者の生活再建や地域コミュニティの再興等の支援活動が必要とされていることから、第2回目の助成を行うことを決定しています。

支援活動をおこなうボランティア団体やNPOが、本助成を活用しながら支援活動を継続し、被災地の問題解決の一助となることを期待しております。

災害ボランティア・NPO活動サポート募金 審査委員会
委員長 菅 磨志保